

田舎ぐらしの7ヶ条

私達は、天野に移り住んでくれる方々を大きな期待を持って出迎えたいと考えています。しかし、自然景観や雰囲気だけで「天野」に住んでもらうことにも一抹の不安を感じます。こんなはずではなかったのにという後悔だけは回避したいのです。そこで、天野を好きな皆さんに、もっと天野を好きになってもらえるよう、私達が抱えているいろいろな条件を包み隠さず知ってもらった上で、天野の住民としてお迎えしたい、「田舎ぐらし7ヶ条」を作ってみました。ご理解ください。

第1条 現金は要る

田舎に住めば、自給自足でお金はかからないと思いがちです。確かに、野菜など食料に関わるものは、近所からもらえたりしますが、日常生活は、基本的には都会と同じです。光熱水費・浄化槽の管理費用・車の燃料代・公租公課などはどこに住んでも必要です。又、地域の行事や神社仏閣などへの寄進も結構多く、現金は必要です。

第2条 プライバシーは無いと思え

田舎に住めば、静かに生活できると思いがちです。確かに、自然環境的には静かで、カエルの歌がうるさくて眠れないほどです。しかし、人間同士の関係は非常に忙しくて、干渉されたくなくても干渉してくれます。留守のはずの我が家に帰ってみれば、台所におすそ分けが置いてあった。又、近所の人が出ていたなんて事はありがちです。でも、このことがあるから、都会ではよく言われる孤独事故の心配であるとか、疎外感とかにさいなまれることはありません。地域コミュニティの源でもあります。

第3条 農業で飯は食えないと思え

大規模な農地を持って田舎ぐらしをする場合は別ですが、そうでない場合は、農業から得る収入で生活をまかなうと言うことは難しいです。副食程度のまかないは出来ます。

第4条 参加を求められる地域行事の多さを覚悟せよ

田舎はとにかく共同作業が多く、四季折々に祭事や奉仕作業が催されます。運命共同体としての個々の役割が求められます。このことをうとうしいと思うなら田舎ぐらしは難しいです。でもこの場がお互いを理解し合える格好の場でもあります。……草刈機は必需です。

第5条 運転免許は必需だ

公共交通機関の利用は当てにしないほうが懸命です。あったとしても連絡が悪かったり、希望する時間に無かったりです。移動手段としての自動車は必需です。

第6条 自分の今までの価値観は通用しないと思え

田舎だからといって封建主義というわけではありませんが、個人の言い分に対して、都会よりは全体を重んじる風潮があります。このことが良好な自然環境や人間関係を保ってきた大きな要因となっています。都会で得られた知識や技術に対してまでも否定される訳ではありません。逆に大きな期待を持って迎えられる。

第7条 自然は時として大きな脅威になる

おとなしい自然は「いやし」そのものです。朝日、昼光、夕日、木々のざわめき、鳥のさえずり、どれをとっても心安らぐものばかりです。しかし、一たび牙をむけば、これほどの脅威はありません。暴風雨、川の氾濫、裏山の崩壊、雪害など生活を破壊してしまうほどの被害もあります。自然は侮れません。

以上、この7ヶ条が理解できれば、あなたは田舎ぐらしの達人です。